



吉川小だより 9月号

京都府亀岡市立吉川小学校 令和8年8月31日発行
〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210
E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



災害から見えること

本日より2学期が始まりました。校舎に響く子どもたちの声を聞くと、いよいよ始まるなという気持ちになります。まだまだ暑い日が続きます。体調に気をつけながら、子どもたちとともに少しずつがんばっていきたいと思います。

さて、みなさんもお存じのように、夏休みの間に日本各地で様々な災害が発生し、被害の様子が連日のように報道されました。

まず、7月28日に発生した熊本地震です。およそ10年前にも熊本城の石垣が崩れるほどの大規模な地震があった熊本。わずか10年間に2回の大地震に襲われることとなりました。被害状況は、8月16日時点で、死者39名、住家被害31,728棟、避難者3,121名となっています。たいへん暑い日々が続く中、断水や停電が長い間続き、断続的に続く余震にも多くの方が現在も苦しまれています。

次に、8月13日に千葉県を襲った豪雨。例年この時期1ヶ月の降水量のおよそ3倍の雨が、わずか半日で降ったということです。被害状況は、8月20日時点で、死者13名、住家被害2,800棟以上、水没等で動かなくなった自動車は、2,700台以上あったということです。

これらの災害から、感じたことがひとつあります。

それは、人と人とのつながり、助け合いの大切さです。今回の災害でも、多くのボランティアの方々が各地から駆けつけて、復興に向けて大きな役割を果たしました。また、多くの募金や救援物資が届けられたり、炊き出しが行われたりする様子も見られました。

地震に遭われた方の中に、一人暮らしのおばあさんがいらっしゃいました。家の中がぐちゃぐちゃになってしまっていて途方に暮れているところに、5人の若者が現れました。「これは捨てる？」とか、「これは置いておこうか」などとおばあさんに穏やかに話しかけながら、落胆して動けないおばあさんの代わりに、家の片付けを進めていました。おばあさんは、そんな若者たちに対して、手を合わせて涙ぐみながら、「ありがとうございます ありがとう・・・」と繰り返し感謝の気持ちを口にしておられました。その時の若者たちのなんとも言えない照れくさそうな表情が、たいへんステキでした。

「困ったときは おたがいさま」「情けは人のためならず」 昔から私たちはそうやって助け合いながら、苦勞を乗り越えてきました。時代がどれだけ変わろうと、これは変わってほしくありません。

校長 谷口 浩之